

**株式会社 JEPLAN が、北海道当別町と  
地域循環共生圏推進に関する包括連携協定を締結**  
— ボトル to ボトルに向けたペットボトルのリサイクルについても協働へ —

株式会社 JEPLAN（代表取締役 執行役員社長：高尾 正樹、以下「JEPLAN」）と北海道当別町（町長：後藤 正洋）は、「地域循環共生圏」の推進に寄与することを目的として包括連携協定を 10 月 3 日（火）に締結しましたので、お知らせいたします。



**地域循環共生圏推進に関する包括連携協定を締結**  
— ボトルtoボトルに向けたペットボトルのリサイクルについても協働へ —



JEPLAN



当別町

当別町は、地球温暖化の原因とされている CO<sub>2</sub>などの温室効果ガスの排出量を 2050 年までに実質ゼロにすることを目指すゼロカーボンシティを表明し、脱炭素社会の実現に取り組んでいます。

今回の協定締結により、双方が有する人的・物的資源を有効活用し、資源循環に向けた推進や消費行動変容の機運醸成など、地域環境保全と地域経済・社会活性化の両立に取り組み、使用済ペットボトルのボトル to ボトルのリサイクル推進や市民への環境教育や啓発活動等の連携を進めていきます。

ボトル to ボトルのリサイクルでは、当別町が回収した使用済ペットボトルを JEPLAN のグループ会社であるペトリファインテクノロジー株式会社（代表取締役社長：伊賀大悟）が独自のケミカルリサイクル技術を用いて石油由来の PET 樹脂と同等品質の原料に再生します。

これによりペットボトルの資源循環を行ない、限りある資源の再利用と新たな石油資源の使用削減、そして CO<sub>2</sub>排出削減を実現します。

今後も JEPLAN グループでは「あらゆるものを循環させる」というビジョンの実現に向けて、引き続き国内外のパートナーとの連携を進め、グループ一丸となりサーキュラーエコノミーを牽引していくことに努めてまいります。



締結式の様子：左から JEPLAN 会長：岩元、当別町長：後藤氏

## ■JEPLAN グループが推進するボトル to ボトルのリサイクルに係る取り組み

JEPLAN グループは、日本全国のさまざまな地域と連携してボトル to ボトルのリサイクルに係る取り組みを推進しています。役割を終えたモノがゴミにならず、価値ある資源として循環する社会を目指すため、JEPLAN グループは、現在、27 の自治体とともにボトル to ボトルのリサイクルに取り組んでいます。

BRING BOTTLE SPOT : <https://bringbottlespot.jp/>

## ■北海道当別町 (<https://www.town.tobetsu.hokkaido.jp/>)

町長：後藤 正洋

## ■株式会社 JEPLAN (<https://www.jeplan.co.jp>)

代表取締役 執行役員社長：高尾 正樹

設立：2007 年 1 月

主な事業内容：PET ケミカルリサイクル技術関連事業（対象：PET ボトル・ポリエステル）など

「あらゆるものを循環させる」をビジョンに掲げ、広くサプライチェーンに携わりながら、独自の PET ケミカルリサイクル技術を用いたものづくり、事業開発や技術ライセンスの展開を推進することで、限りある資源の循環を実現し、CO<sub>2</sub>の排出量削減に寄与しています。

独自のケミカルリサイクル技術と資源循環の仕組みづくりにより、不要な衣類を回収し「服から服をつくる」サーキュラーエコノミーを社会に実装するブランド「BRING」の運営や、自治体や企業との連携によりペットボトルを何度でも繰り返しリサイクルを実現する資源循環の事業に取り組んでいます。資源循環を社会に実装するため、PET ケミカルリサイクルのプラントを北九州響灘と川崎（グループ会社：ペトリファインテクノロジー株式会社）の 2 拠点で運営しています。



## ■ペトリファインテクノロジー株式会社 (<https://www.prt.jp>)

代表取締役：伊賀 大悟

設立：2008 年 10 月

事業内容：独自の PET ケミカルリサイクル技術を用いた使用済みペットボトルのリサイクル樹脂の製造・販売

本件に関する取材のお問い合わせ先

株式会社 JEPLAN 広報担当

電話：044-223-7898 E-mail：jeplan\_info@jeplan.co.jp